

JCM800 2203

Owners Manual



Marshall



From the Chairman

リイシュー版のオールバルブ、100ワットのJCM 800 2203マスター・ボリュウム・ヘッドをお買い上げいただきありがとうございます。長く愛され続けてきたマーシャルの高い評判は、さまざまな要素の上に築かれてきました——画期的な設計、確かな技術、信頼性、柔軟性、スタイリッシュなデザイン、そして何よりもすばらしいトーンとフィール。現代の多くのギタリストがマーシャルのビンテージ・アンプに惹かれ続けていることはこれらのモデルが今日も重要な意味を持ち続けている証明です。

お買い上げいただいた100ワットのJCM 800 2203は、もともと1981年3月に発売され、80年代を通じてロック・ギタリストのあいだに非常に人気の高かったものです。1991年にJCM 800シリーズはJCM 900シリーズに取って代わられました。2203モデルはその後も数多くのプレイヤーに人気があったため、今回製造を再開することになりました。

リイシューされたJCM 800 2203は、オリジナル・モデルのデザイン、トーン、フィールを忠実に再現したものです。さらには、多くの2203愛好家のリクエストにより、リイシュー版にはシリーズ・エフェクト・ループを搭載して、現在のパフォーマンス環境に完全に合致したものにしました。

ますます広がるマーシャル愛好家の輪に加わった皆さんの音楽活動の成功を祈っております。



警告！ —— 安全にご使用いただくために

警告：このアンプはアースを接地しなければなりません。

- A 電源を入れる前に、本書を熟読してください。
- B 電源コードは付属のものをご使用ください。交換が必要な場合は、ご購入の店を通じてご依頼ください。
- C ヒューズを取り外したり、定格外のヒューズを使用したりしないでください。
- D アンプのシャーシを外さないでください。内部にはお客様の取り扱いできる部分はありません。
- E ヒューズやバルブの交換を含め、アンプの修理とサービスは、ご購入の店を通じてご依頼ください。電源コードまたはプラグが破損したり、アンプの上に液体をこぼしたり、長時間アンプが湿気にさらされたり、乱暴な取り扱いをしたりすることは故障の原因となりますので十分ご注意ください。
- F 湿気の多い場所やぬれた状態でアンプを使用しないでください。液体の入った容器をアンプの上に置かないでください。
- G 落雷時や長時間使用しない場合には必ず電源プラグを外してください。
- H 電源コードは、大切に取り扱いってください。プラグとコンセントの接続部分、アンプとコードの接合部分などを踏みつけたり、何かに挟んだりしないように注意してください。
- I ラウドスピーカーを接続していない状態でアンプに電源を入れないでください。
- J 外部キャビネットはインピーダンスが整合するものを使用してください。

注：このアンプは欧州連合の電磁場適合性（EMC）規制法 [環境E1、E2、E3 EN 55103-1/2] および低電圧機器規制法に準拠しています。

警告：アンプを許可なく変更、改修した場合には、このアンプを使用できなくなることがあります。

注：2203の接続に用いるオーディオ・ケーブルは、スピーカー・ケーブルを除き、長さ10メートル以下の高品質のシールド・ケーブルを用いてください。

2203ヘッドとエクステンション・キャビネットの接続には、ノンシールド・ケーブルを用いてください。

警告：通気孔をふさがしないでください。アンプは風通しのよいところで使用してください。



米国のみ —— 有極プラグまたは接地タイプ（3芯）のプラグは正しくご使用ください。有極プラグには幅の異なる2枚のブレードがあります。接地タイプのプラグには2枚のブレードの他に接地用のブレード（アース）がついています。幅の広い接地用のブレードは、安全にご使用いただくためのものです。付属のプラグがコンセントの形と合わない場合は電気技術者に相談し、コンセントを新しいものに取り換えてください。

すべての注意書きに従い、警告を守ってください

この注意書きは保存してください

はじめに

オールバルブの2203は、マーシャルの輝かしい歴史のなかで最も高い評価を得ている100ワット・ヘッドのひとつです。伝説的な100ワット“プレキシヘッド”から発展した2203は、マスター・ボリューム（MV）コントロールを搭載したマーシャル初のアンプでもあります。このシンプルでありながら画期的な機能は、アンプを全開にしながらもプリアンプ・バルブをオーバードライブできるようにしたものです。これは非常に人気が高く、実用的な機能となりました。ご存知のとおり、100ワットのマーシャルの音量をめいっぱい上げると、かなりの大音量になるからです。さらには、2203のカスケード式のプリアンプ設計のおかげで、ギター・アンプでそれまでできことのできなかったレベルのディストーションが生まれました。

最初の2203モデルが世に出たのは、1975年のことでした。その6年後の1981年に登場したJCM 800バージョンはオリジナルの外観だけを改めたものでした。回路設計はまったく同じでしたが、アンプの存在感は増しました。幅広のフロントパネル（1975～1981年の2203は、フロントパネルが1959SLPのように幅があまり広くないものでした）、フロント・バッフルを覆う格子のクロス、白い縁飾り、そしてフロントパネルに書かれた“JCM 800”の力強い文字とジム・マーシャルのシグネチャー。JCM 800の名前の由来も興味深いものでした。マーシャル氏の車のナンバープレートの表記が“JCM 800”だったのです。“JCM”は、ジェームズ・チャールズ・マーシャルのイニシャルで、800は自動車の登録番号でした。

さまざまなギター・アンプのなかにおいて、究極のシンプルさを体現しているのが2203です。1チャンネルのアンプで、リバーブや内臓のエフェクトはなく、オールバルブの設計によって生まれるサウンドは、マイク・ドイル氏とその優れた著書『マーシャルの歴史』のなかで形容したとおり、「ハリネズミの上を走るトラックよりクランチャー」なものです。このきわめて簡単に扱えるインターフェースや、個性的で迫力あるサウンドと並はずれた“エッジ”により、2203はたちまちロック・アンプのスタンダードの地位を確立し、16年にわたる製造期間を通じて業界の“標準規格”であり続けました。

2203の生む前代未聞のトーンは、70年代末から80年代初めのハード・ロックの爆発の火付け役となりました。このアンプのJCM 800バージョンは（その大部分が2203から派生したJCM 800シリーズの他のモデルとともに）、この時期に誕生し、80年代に業界を支配したヘビーメタル・シーンで中心的な位置を占め、独創性に富んだスラッシュ・メタルのレコーディングの多くに使用されました。スラッシュのジャンルを開拓し、多大な影響力を及ぼしたバンドであるスレイヤーのケリー・キングとジェフ・ハネマンは、今日に至るまでマーシャル2203を愛用しています。

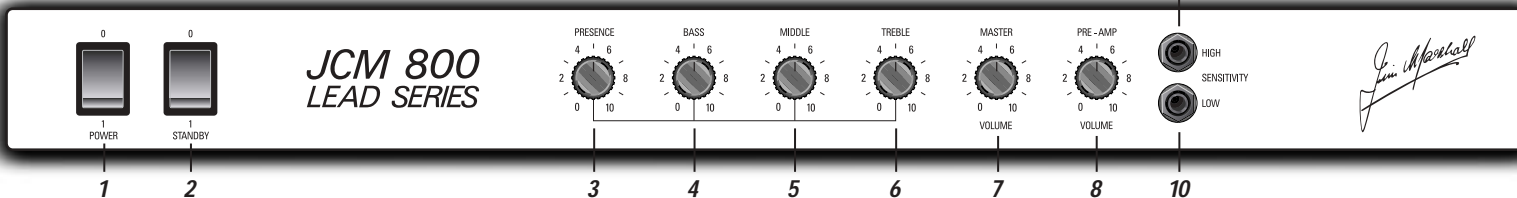
80年代末から90年代初めにかけては、英国で“オルタナティブ/ブリット・ポップ”ムーブメントが起こり、アメリカでは“グランジ”が一世を風靡していました。こうした非常に多様な音楽ジャンルで2203が幅広く使用されたことは、このアンプが非常に幅広く多彩なトーンを持っていることの証明です。

非常に評判の高いマーシャルのJCM 900シリーズが1991年にリリースされ、16年間にわたってサウンドの頂点で活躍したJCM 800 2203は、惜しまれつつ引退することになりました。生産は中止になったにもかかわらず、2203はその後も大勢のプレイヤーに追い求められるアンプであり続けました。（オジー・オズボーンとブラック・レーベル・ソサエティで知られる）あのすばらしい“フレット・バーナー”のザック・ワイルドなどは、ビンテージの2203を捜し出してはスタジオやステージで使っていたのです。

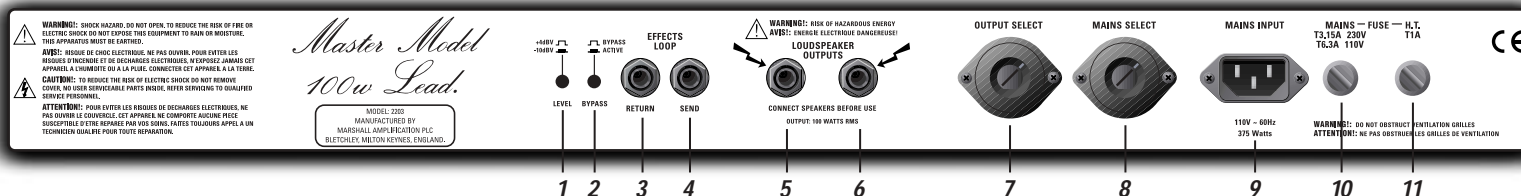
マーシャルは、日々寄せられる2203のリクエストする声に応え、このすばらしいアンプを最も親しまれたJCM 800バージョンで再び発売することを決めました。さらには、多くの人の要望により、シリーズ・エフェクト・ループを搭載し、ループを回路から完全に外し、もとのトーンを完全なままに維持することのできるバイパス・スイッチをこれにつけました。



Front Panel



Rear Panel



フロントパネル

1 電源スイッチ

アンプの電源をオン/オフします。電源をオンにするとスイッチが点灯します。アンプを移動するときは、必ず電源をオフにし、電源コードを電源から外してください。

2 スタンバイ・スイッチ

スタンバイ・スイッチを電源スイッチ（1項）と合わせて使うと、アンプを使用前に暖めて、出力バルブの寿命を延ばすことができます。アンプを作動させるときは必ず電源スイッチ（1項）を先に入れてください。こうすることによってバルブを適正な温度に暖めるために必要な電圧が適用されます。2分ほど待ってバルブが適正な温度に暖まったら、スタンバイスイッチを入れます。こうすれば出力バルブが信号を通し、音を出すために必要な高電圧が適用されます。演奏の中休みにスタンバイ・スイッチだけをオン/オフするとバルブの寿命を延ばすことができます。また、電源を完全に切るときには、電源スイッチ（1項）より前にスタンバイ・スイッチを切ってください。

3 プレゼンス・コントロール

アンプのパワー・アンプ・セクションでギター・トーンに高周波の信号を加え、引き締まった歯切れのいいサウンドにします。時計回りに設定を上げると、サウンドの切れ味が増します。

4 ベース・コントロール

トーンの低周波（低音域）の量を調節します。

5 ミドル・コントロール

サウンドの重要な中音域を調節します。時計回りに設定を上げると、ギター・サウンドに厚みが出ます。反時計回りに設定を下げると、スラッシュやニューメタル・ギターの特徴であるミドルを“スクープ”したアグレッシブなトーンが得られます。

6 トレブル・コントロール

トーンの高周波を調節します。設定を上げると、明るいトーンになります。
重要：2203のトーンのネットワークは非常にインタラクティブなもので、ひとつのコントロールを調節すると他のコントロールがサウンドに及ぼす影響が変化することがあります。さまざまな設定を試して理想のトーンを見つけてください。

7 マスター・ボリューム

アンプの出力音量を調節します。これによってプリアンプ・ボリューム・コントロール（8項）を最大に押し上げても、全体のボリュームを自在に調節することができます。

8 プリアンプ・ボリューム

プリアンプ・バルブの出力を調節します。設定を上げるとプリアンプがオーバードライブされ、ハーモニー豊かな心地よいディストーションが得られます。

9 高感度入力

高感度の入力は、基本的には低出力ピックアップのために設計されています。しかし2203ユーザーの99.9パーセントはこの基本を無視して高出力のピックアップを搭載したギターをこの入力に接続し、プリアンプをさらにハードにドライブしています。

10 低感度入力

低感度の入力は、高出力ピックアップのために設計されています。両方の入力を試して自分に合ったほうを選ぶようおすすめします。

リアパネル

エフェクト・ループ・センド&リターン・ジャック

さらに柔軟な音作りを実現するために外部のエフェクターを2203に接続する場合には、このシリーズ・エフェクト・ループにフロアペダルまたはエフェクト・プロセッサを直接接続し、レベル（1項）で適切な作動レベルを選択できます。

1 エフェクト・ループ・レベル・スイッチ

シリーズ・エフェクト・ループに接続されたエフェクターのタイプに合わせてエフェクト・ループのレベルのいずれかを選択します。高いレベル（+4dBV）はエフェクト・プロセッサに、低いレベル（-10dBV）はフロアペダルに適しています。

2 エフェクト・ループ・バイパス

このスイッチを「切」にすると、エフェクト・ループの回路を完全に外し、トーンをピュアなままに保つことができます。

3 エフェクト・ループ・リターン・ジャック

外部のエフェクト・プロセッサの（モノ）出力を接続します。

4 エフェクト・ループ・センド・ジャック

外部のエフェクト・プロセッサの（モノ）入力を接続します。

注：一般に、コーラス、ディレイ、リバーブなどの遅延系エフェクトは、ループへの接続に適しています。ディストーションやワウワウなどのエフェクトは、アンプの前（ギターとアンプの入力のあいだ）への接続に適しているのが普通はループに接続しませんが、ことトーンに関するかぎり、ルールはありません。

5/6 ラウドスピーカー出力ジャック

スピーカー・キャビネットなど外部の負荷に接続します（7項参照）。26ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

7 出力セクター

アンプの出力をスピーカーのインピーダンスに整合させます。オールバルブ・アンプの場合、

作動中に何かしらの負荷をアンプにかけると、選択したインピーダンスが使用中のスピーカー・キャビネットの合計インピーダンスと一致していることが不可欠です。たとえば、16Ωキャビネット1台にアンプを接続している場合、アンプのインピーダンスも16Ωに設定します。16Ωキャビネット2台に接続している場合は8Ω、8Ωキャビネット2台に接続している場合は4Ωにアンプを設定します。このようにしてインピーダンスを整合させなければアンプの破損につながりますのでご注意ください。セクターの設定を変更する前に、アンプの電源を完全にオフにしてください。

8 電源セクター

アンプの電源変圧器を入力する電源の電圧と整合させます。回転式の電源セクターを、アンプを使用する国の電圧に合わせて設定してください。電源の入力電圧がわからない場合は、ご購入の店にお問い合わせください。セクターの設定を変更する前に、アンプの電源を完全にオフにしてください。

9 電源入力

付属の取り外し可能な電源コードを接続します。ご使用のアンプの入力電圧の定格はリアパネルに表示されています。初めて電源に接続する際には、アンプと電源の電圧が整合していることを確認してください。疑問があるときはご購入の店でご相談ください。230/220Vから110V、あるいは110Vから230/220Vへ切り替える場合は、電源ヒューズを整合するものに交換してください。詳細についてはリアパネルを参照してください。

10 電源ヒューズ

電源ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。26ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。

11 高電圧ヒューズ

高電圧ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。26ページの安全な使用のための注意書きを参照してください。